

お田植感謝の夕べ

～灯そう千枚田～



四谷の

千枚田だより



第 166 号

20th
鞍掛山麓千枚田保存会
Anniversary



六月三日、主催：鞍掛山麓千枚田保存会 共催：連谷公民館始め各種団体、ふるさと指導員協力のもと「お田植感謝の夕べ」灯そう千枚田が盛大に開催された。

当日、朝九時、各種団体有志が参加者はそれぞれの思いを込め点火した。作業道に赤色カラーポットと透明コップを交互に並べた千五百本のロウソクによる鎮魂の灯火は暮れゆく棚田に幽玄かつ幻想的な雰囲気醸し出した。

七時、花火を合図に松下尚弘公民館長の開催挨拶に始まり穂積市長さんご夫婦、鈴木克昌、今枝宗一郎衆議院議員の先生方の挨拶を頂き、お田植感謝の夕べ灯そう千枚田が開始された。会場では千枚田ならではの名物「鳥長」の皮肝や焼きそば、イカ焼き、飲み物の定価販売を威勢よくアピール。保存会は田んぼを荒らしまくる憎きイノシシを捕獲、資源の有効活用として大はそり二杯を大判振る舞い、棚田っ娘は五平餅の販売。天空には十五発の花火が華を添え「こんげらぼう」を盛り上げた。

九時、号砲を合図に閉会、小山舜二保存会会長は「お田植感謝の夕べ」の総括として、「一番嬉しいのは梅雨の最中にも関わらず皆さんのパワーで十二年間お天気も協力（雨なし）してくれたこと、連谷地区が一体となった「むらづくり」もスタッフの大きな絆で大成を得ることができたこと、参加した皆さんも大きな満足を得られたことと思いますが、今日のイベントはすでに来年の開催に架かっている。その、存続は皆さんの志、協力金から成り立っている。お帰りの際は、ご遠慮なく協力金箱にご協力を」と述べた。

田の草取り

六月八日、豊橋調理製菓専門学校
の田の草取りが行われた。



生徒たちは自ら植えた稲の生長
の速さに感動、セッセと草取り作業
に勤しんだ。同時に稲の生育調査も
行い、その結果は粳(ミネアサヒ)三
本植えが十四本に、糯(鈴原糯)四本
植が二十四本に分枝、順調に生育し
ていることに学生たちは喜んだ。

視察対応

六月十日、エコネットあんじょう
の自然部会四十名は動植物など、自
然環境についての環境学習講座の

一環として四谷の千枚田を訪れた。

エコネットあんじょうは環境に
対する意識の高揚、安全で持続可能
な地域の良好な環境保全に寄与す
ることを目的とする市民団体であ
る。(舜)は「ゴミのない棚田日本一
を誇る四谷の千枚田、急傾斜地の棚
田保全管理の厳しさ、農業の生産の
場と位置付けていたが、次第に観光
地化してしまい、耕作者は戸惑っ
ているものの、訪れる人々に無様な姿
を見せたくない」と明けても暮れて
も畔草刈りに勤しんでいる百姓を
褒めてほしい」。等々を説いた。



観察会

六月十一日、市立鳳来寺山自然科
学博物館主催「春の生きものを探そ
う」が開かれた。



募集人数四十名のところ五十余
名とかつてない参加者を得て、多様
性に富んだ千枚田の自然観察を楽
しんだ。

講師は博物館学術委員で地元の
(舜)と川村 浩先生。元連谷小に教
頭で居られた水谷英夫先生と自然
界のスペシャリスト小椋さんの応
援で子ども達は小沢の魚取りやト

ンボ、チョウウチヨの採取に夢中にな
っているその姿に親たちの目もほ
ころんで見えた。ふれあい広場では
モリアオガエルの卵塊が見えるな
ど、充実した観察会ができた。



今後の予定

- ・ 七月一日、子ども農学校 生きもの観察会(六十名)
- ・ 七月二日、明朗クラブ研修旅行

行 平成二十九年六月二十日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二